

本書の特色

- ・ **世界の花蓮、約100種を紹介**
アジアからアメリカ、ロシアまで。貴重な花蓮を紹介。
- ・ **カラー図版208頁**
高度な技術で撮影された花の姿を、フルカラーで再現。
- ・ **日本語・中国語・英語の3ヵ国語で構成**
世界的に盛んになりつつある花蓮文化への貢献を意図し、英語および中国語版の解説を併載。
- ・ 二著者（蓮文化研究会の元事務局長と理事）による最新の知見と研究成果を反映させた解説を掲載。最先端の研究成果を反映した解説を掲載。
- ・ 巻末に「花蓮学ノート」を掲載。豊富な図版資料とともに、花蓮に関する知識を網羅掲載。

収録した主な花蓮・景勝地

- ◆ **主な花蓮**
○大賀蓮(千葉県千葉市)○行田蓮(埼玉県行田市)○巨椋の炎(京都府宇治市周辺)○真如蓮○太白蓮○明美蓮○友誼牡丹蓮○仏足蓮○誠蓮○西円寺青蓮○碧台蓮○一天四海○不忍池斑蓮○巨椋の輝○舞妃蓮○知里の曙○妙蓮○千弁蓮○碗蓮(大阪「咲くやこの花館」)など、約100種
- ◆ **主な景勝地**
○琵琶湖(滋賀県)○伊豆沼(宮城県)○瓢湖(新潟県)○広昌(中国江西省)○白洋淀(中国河北省)○プジャヘ(中国雲南省)○琿春(中国吉林省)○月牙湖(中国黒龍江省)○江華島(韓国)○ビロビジャン(ロシア)○ウイスコンシン州(アメリカ)

花蓮の魅力のすべてを楽しむ決定版

20世紀の後半から、花の美しさを愛でる蓮、すなわち「花蓮」が、愛好家のみならず一般の人からも注目されるようになりました。

そうした潮流を率先し、花蓮の啓蒙と普及、同好者の育成に尽力してき三浦功大・池上正治両氏が、鋭意研究し蓄積した世界の蓮の花100種類の美しい写真に添えて、植物としての蓮の花の生態や来歴、信仰、物語・文学等々に語られる花蓮の世界を合わせて、総合花蓮学の書物として提供いたします。

花蓮の世界を10章で構成して、各分野において代表的な蓮の花の写真を厳選、その背景や魅力を解説しました。

近年、特に中国での関心が高まってきましたが、東南アジア、欧米でも話題になっています。花を愛でるのは世界共通ですから世界の人たちにむけて日本語および、中国語と英語の解説をのせました。

地球環境問題が叫ばれるなか、水辺の環境保全に花蓮が大きく貢献できるのではないかと期待しています。



世界の花蓮図鑑

はなはす ホアリエン

世界花蓮图鉴 Photographic Reference Book of World Lotus Flowers

〔写真と文〕三浦功大・池上正治

花蓮の「美」と「魅力」に迫る



2012年8月刊行

A4判上製・カラー 248頁
ISBN978-4-585-24004-4 C1045

本体18,000円(+税)

執筆者紹介

三浦功大

(みうら・こうだい)

花蓮研究家。元・蓮文化研究会事務局長。1942年、宮城県生まれ。東京写真短期大学卒業。広告会社をへて、1974年よりフリー。著書・編著「蓮の話」1～4号、『蓮の文華史』『蓮への招待』『行田蓮』写真集『Jazz in Japan』など。

池上正治

(いけがみ・しょうじ)

作家・翻訳家。蓮文化研究会理事。1945年、新潟県生まれ。東京外国語大学中国科を卒業。中国をテーマに著述活動をする。著訳書は『蓮100の不思議』(共著)、「気の三部作」、『龍の百科』『徐福』『中国科学的幻想小説事始』など、計60余冊。

李振溪

中国語担当
(Li Zhenxi)

翻訳者・語学教師。1963年、中国天津生まれ。中国(天津)南開大学日本語科を卒業。

李軍

英語担当
(Li Jun)

翻訳者・語学教師。1965年、中国天津生まれ。中国(天津)南開大学英米文学科を卒業。

詳細情報
ご注文は

bensei.jp/ 勉誠出版

〒101-0051 千代田区神田神保町 2-20-6
TEL:03-5215-9021 FAX:03-5215-9025

※ご記入いただいた個人情報は、ご注文書籍の発送、お支払確認および、ご希望いただいた方への刊行案内をお送りするために利用し、その目的以外での使用は致しません。

注文書	世界の花蓮図鑑 三浦功大 池上正治 [写真と文] 本体 18,000 円(+税)		
	世界花蓮图鉴 Photographic Reference Book of World Lotus Flowers		
	2012年8月刊行・A4判上製・カラー 248頁・ISBN978-4-585-24004-4 C1045		
	お名前(ふりがな)	お届け先ご住所	
	お電話番号		ご注文冊数 冊

泥土に生えて汚れなく、優美に妙なる大輪を開花して芳香をはなつ浄土の花。

花の魅力にとりつかれ、世界の花蓮約 100 種を探索発見。花の姿を写し花蓮学を提唱する。



第1章
太古の赤い色をつたえ、
見る人を魅了する基源の蓮



第2章
気品ただよう白い蓮は、
偶然がなせる新しい品種か



第3章
黄色い蓮が「新大陸」に
ある理由は、未解明のまま



第4章
紅の蓮が八重に咲けば、
どこか妖艶な風情をかもす



第5章
白の八重の蓮には、味わい
つくせない豊潤さがある

大賀蓮

おおがはす 大賀蓮 ターホーリエン Ohga-hasu

所在	日本・大型
花色	桃紅
花経	24 ~ 28cm
弁数	16 ~ 19

「2000年の眠りからさめた」大賀蓮は、日本でいちばん高い知名度を持つだろ
きな、紅い花すがたは、まさに容姿端麗である。それが古代蓮をいまに伝える
大賀蓮を見る人たちの目が釘づけになるのも当然のことだ。

大賀一郎氏（1965年没）は、昭和26年、千葉県の検見川で地元の小中学校の
力を得て、深さ4メートルの泥炭層から計3粒の蓮の実を発見、そのうちの1粒
を開花させた。これが「大賀蓮」である。

ほぼ同じ場所から出土した丸木舟は、測定の結果、3075年 ±180年前のもの
氏自身は控えめに、「二千年蓮」と名づけている。

この「発掘と発見のヒント」は、同氏が大正時代、南満州鉄道に勤務して
（いまの遼寧省）で採集した大量の古い蓮の実と、その発芽実験にあった。こ
で蓮のことを考える場合、忘れてはならない事実である。

大賀蓮が世界的に有名になったのは、グラフ誌『LIFE』（1952年11月）の
「Blooms After 2000 Years」と題して、蓮の花をもつ大賀氏の写真を掲載し
千葉県は昭和29年、「検見川の大賀蓮」を天然記念物に指定した。大賀蓮は
「市の花」であり、切手（ふるさとシリーズ千葉県、平成11年発行）にも登場

大賀蓮 dà hè lián
人们常说这是从两千年的睡梦中醒来的
奇花，这个比喻毫不为过。大贺莲在日本是
最具知名度的荷花，花色粉红，风姿诱人。
1955年，大贺一郎来到日本千叶县的
检见川，在当地孩童的帮助下，从淤泥中发
现了三粒古代莲子。经科学鉴定，竟是大约
三千年前的种子。大贺博士谦虚地将她命名

为“二千年莲”。发现地点在
在中国。日本战败之前，大贺
“铁路公司”工作，他从那里
代莲子，并做了发芽试验。
大贺莲闻名于世，1955年
《生命》杂志上一幅大贺莲
如今她已被定为“千叶市花”，还发行过

Ohga-hasu usually being said to have woken up from a two-thousand year
known and attractive lotus in Japan, with pink petals.

In 1955, with the help of 3 local children, Dr. Ichiro Ohga found three
at Chiba Prefecture, which later identified scientifically as being about 3000
named the seed "2000-year-old lotus".

Actually, Dr. Ohga first came upon Ohga-hasu in China, when he worked for the
Railway Company in the 1920's. He brought a lot of lotus seeds back from
northeast China and did many germination tests with them.

Ohga-hasu lotuses became well-known in the world when a picture of the
flower appeared in the American magazine of LIFE.

Now Ohga-hasu is designated as a precious natural memento by Chiba City.
of Chiba City. A stamp with the Ohga-hasu design was also issued.

原寸組見本



第6章
造化の美は、かくも繊細
かつ大胆にデザインされる



第7章
東西の蓮が交われれば、そこ
には美の極致が現われる



第8章
天の采配の誤りではないか、
と言わせてもらいたい



第9章
玲瓏としたミニの蓮たちは、
現代の生活に溶けこむ



第10章
大自然のなかに蓮の饗宴を
さがし、旅はどこまでも

品種毎に日本語・中国語・英語の詳細な
解説を付して花蓮学を提唱する

繊細優美な花の精を執念で写す